

(1) 本県のがんを巡る現状

◇ がん罹患の状況

1 がん罹患数

がん登録から本県の罹患数を見ると、近年増加傾向にあり、令和2年においては、11,763件（男性；6,645件、女性：5,118件）となりました。

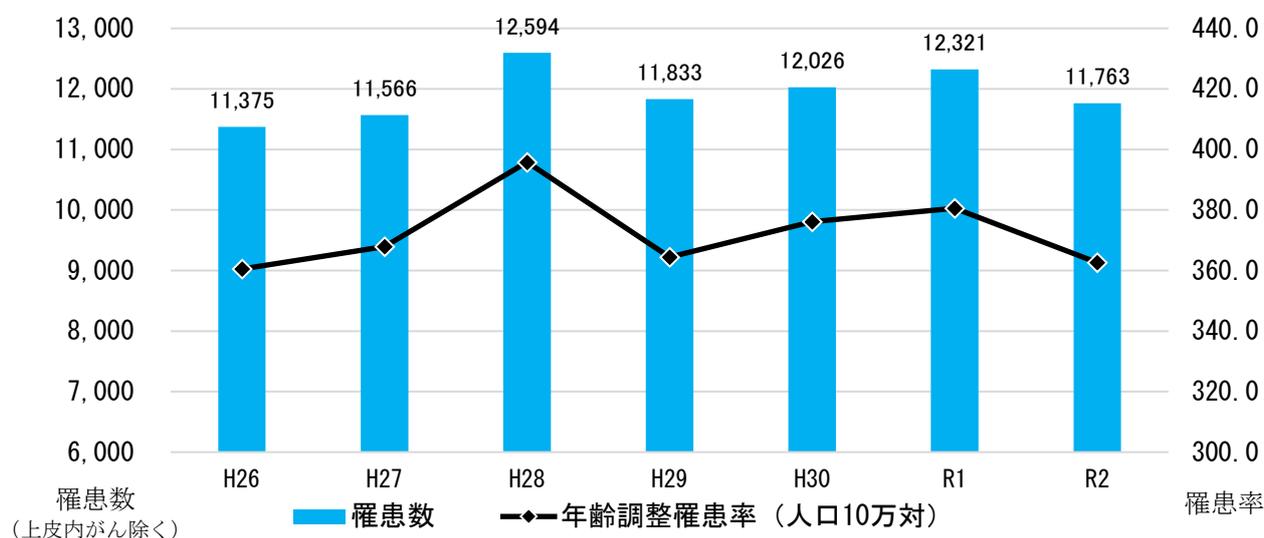
がん罹患数を性別部位別に見ると、男性は前立腺、女性は乳房が最も多くなっています。

※がん罹患とは…がんにかかること。

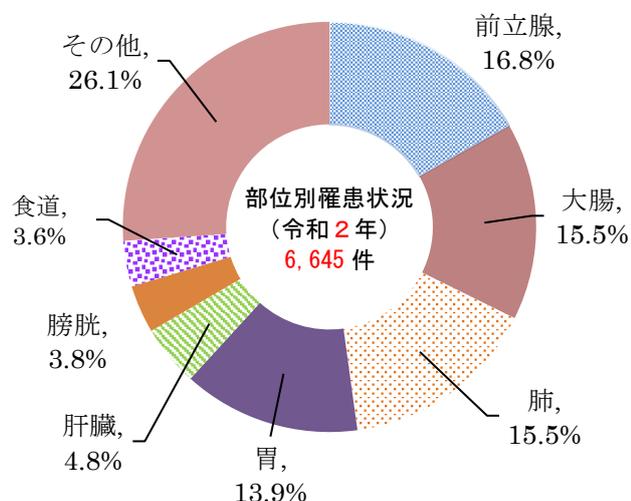
※がん罹患数とは…対象とする人口集団から、一定の期間に、新たにがんと診断された数（がんにかかった人の数ではない。）

※年齢調整罹患率とは…年齢構成の異なる地域間や年次間で罹患状況の比較ができるように、年齢構成を調整した罹患率（罹患数を人口で除したもの）のことです。

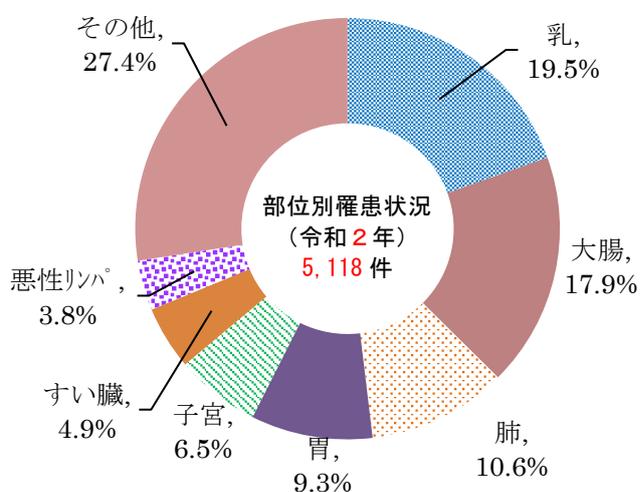
＜図－1＞がん罹患数、年齢調整罹患率の状況（令和2年）



【男性】



【女性】



出典：山口県がんサーベイランスセンター「山口県がん登録 令和2年罹患集計」

2 部位別年齢調整罹患率の推移

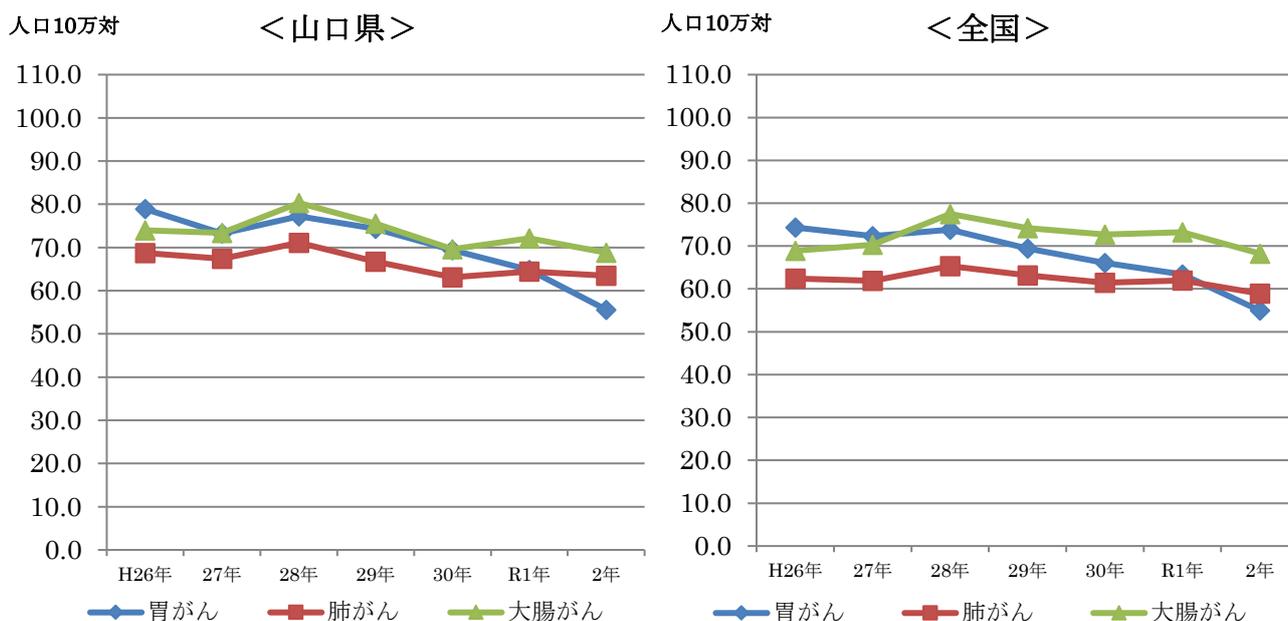
主な臓器のがん罹患率は、男性が女性に比べて高くなっています。

令和2年は、男性はすべてのがんが減少しており、女性は大腸がん、乳がんが増加しています。

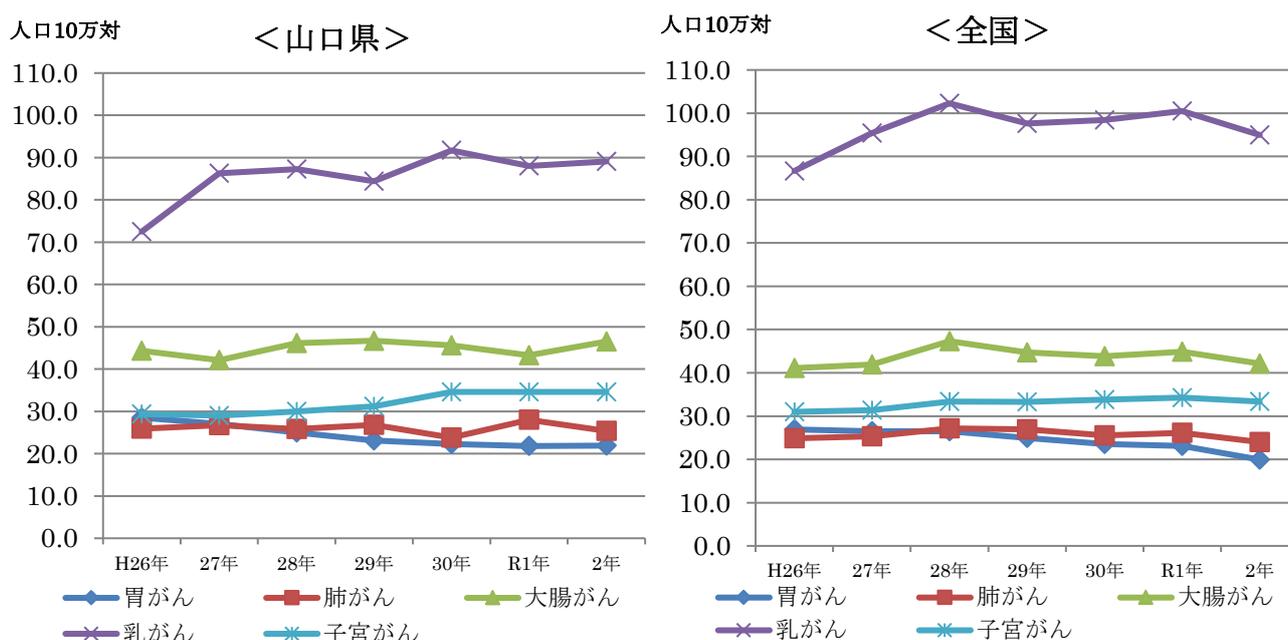
また、罹患率の推移はおおむね全国と同様の傾向となっていますが、女性の乳がんの罹患率が低い一方、男性の肺がん及び女性の大腸がんの罹患率がやや高めです。

<図-2> 部位別年齢調整罹患率の推移（令和2年）

【男性】



【女性】



出典：山口県がんサーベイランスセンター「山口県がん登録 令和2年罹患集計」
 国立がん研究センター がん情報サービス（全国がん罹患データ 2020年）

3 年齢階級・主要部位別粗罹患率

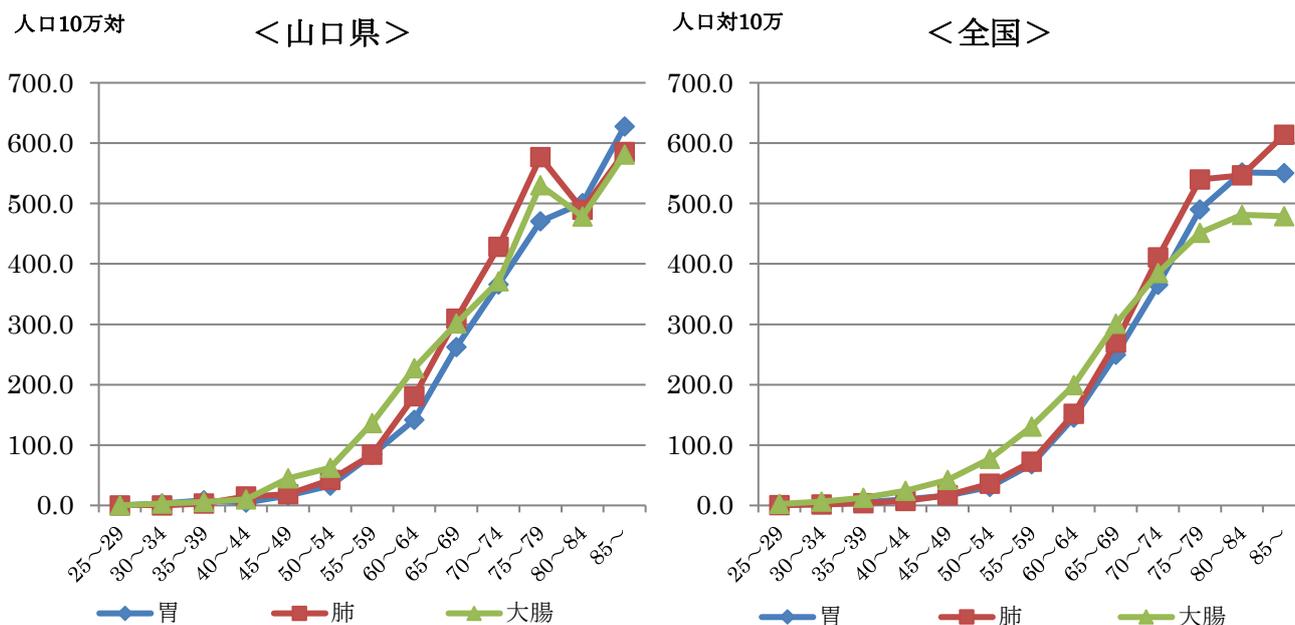
男性は年齢とともに罹患率が徐々に高まり、特に50代以降で罹患率が上昇しています。

女性も同様の傾向があるものの、子宮頸がんは20代から40代の若年層の罹患率が高く、乳がんは40代から罹患率が高くなっています。

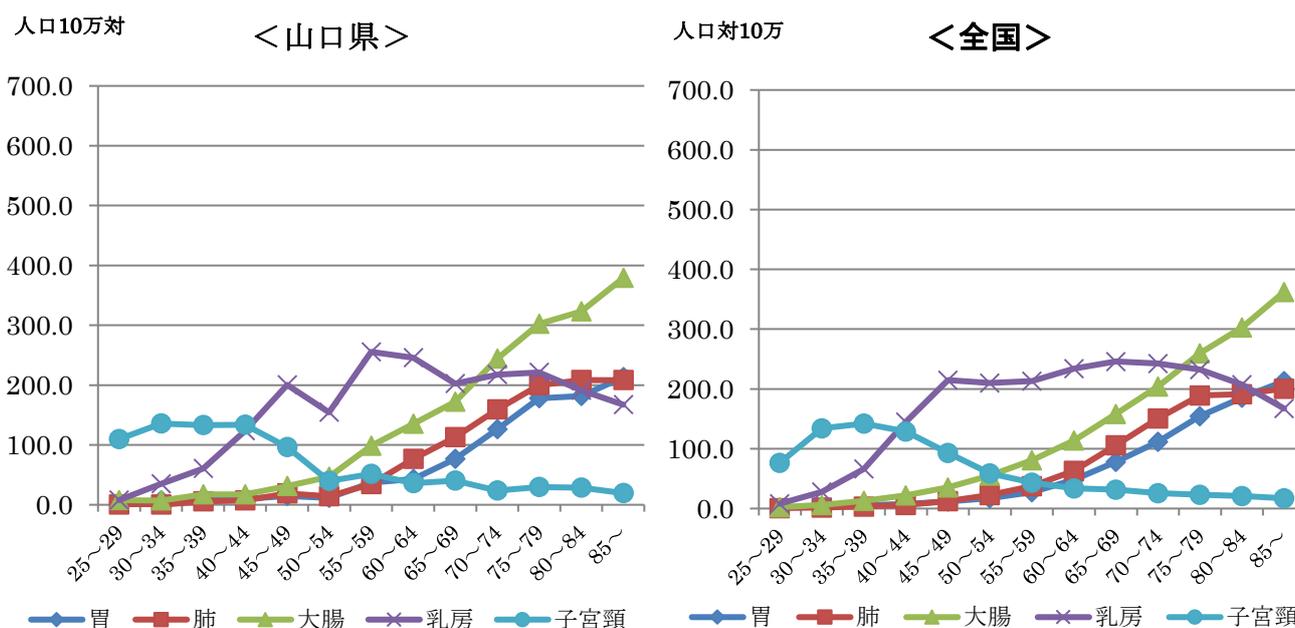
これは、全国とおおむね同様の傾向となっています。

＜図－3＞年齢階級・主要部位別粗罹患率（令和2年）

【男性】



【女性】



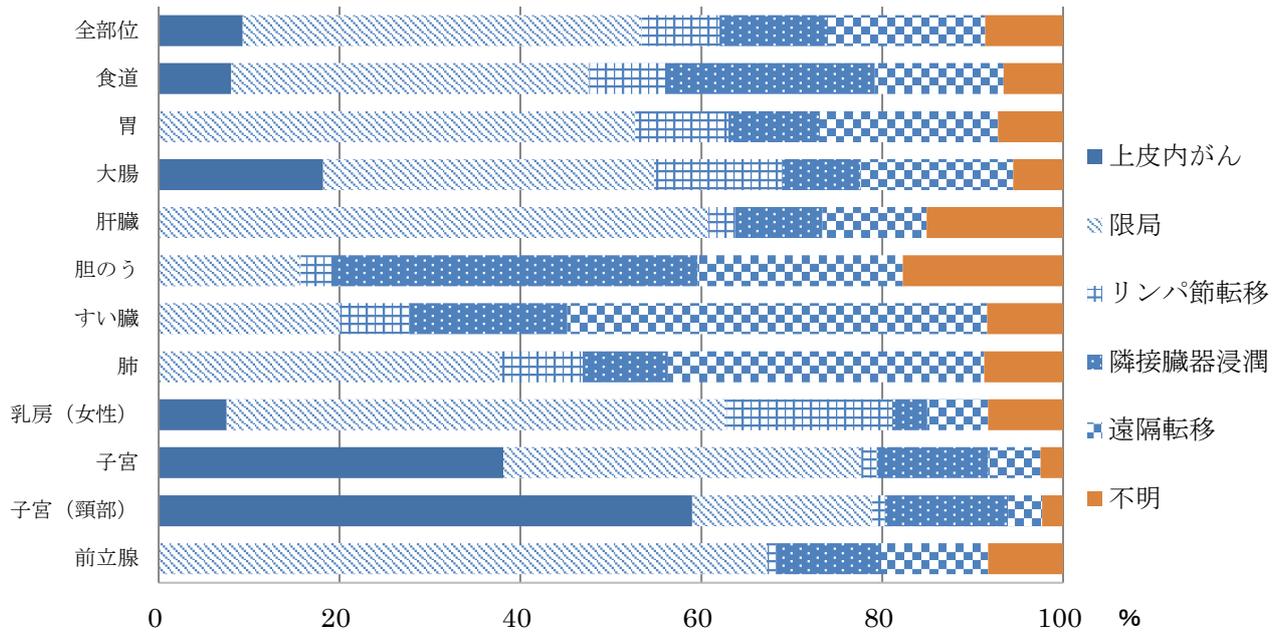
出典：山口県がんサーベイランスセンター「山口県がん登録 令和2年罹患集計」
 国立がん研究センター がん情報サービス（全国がん罹患データ 2020年）

4 部位別発見時の病期（ステージ）

がんの進行度である病期について、全部位では、約半数ががんの発生した臓器内に止まっている「上皮内がん」又は「限局」の状態、約3割が「隣接臓器への浸潤」や「遠隔転移」の状態で見られており、全国と同じ傾向となっています。

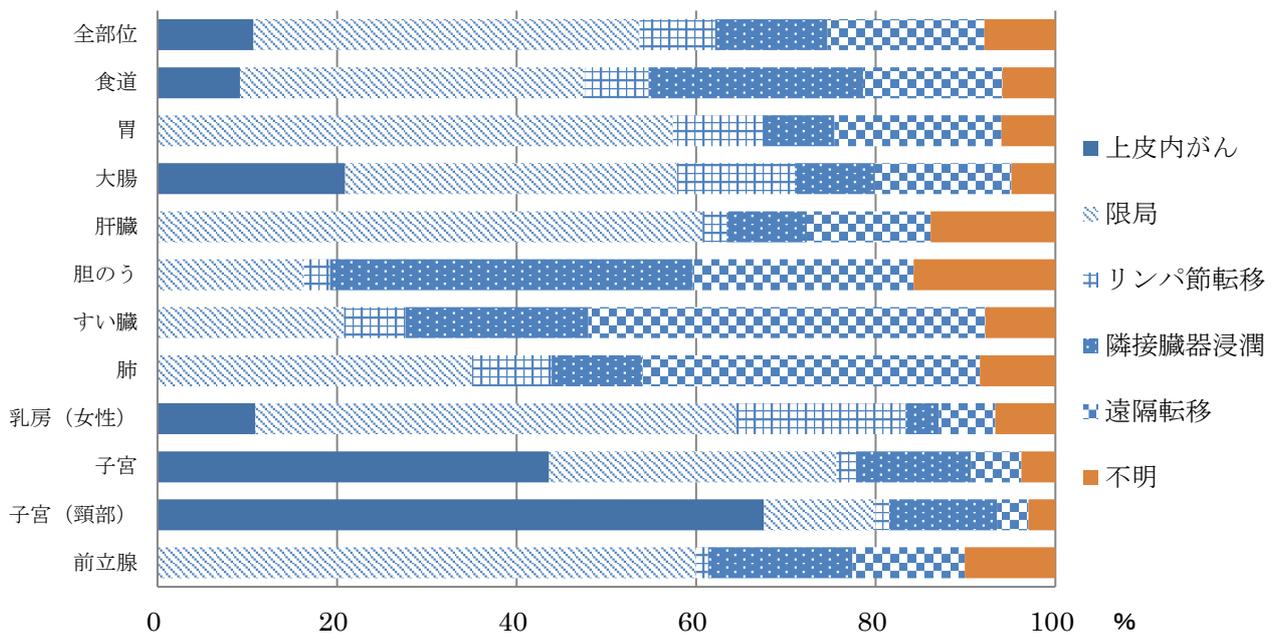
<図-4> 部位別発見時の病期（令和2年）

【山口県】



資料：山口県がんサーベイランスセンター「山口県がん登録 令和2年罹患集計」

【全国】



出典：厚生労働省「令和2年全国がん登録 罹患数・率 報告」

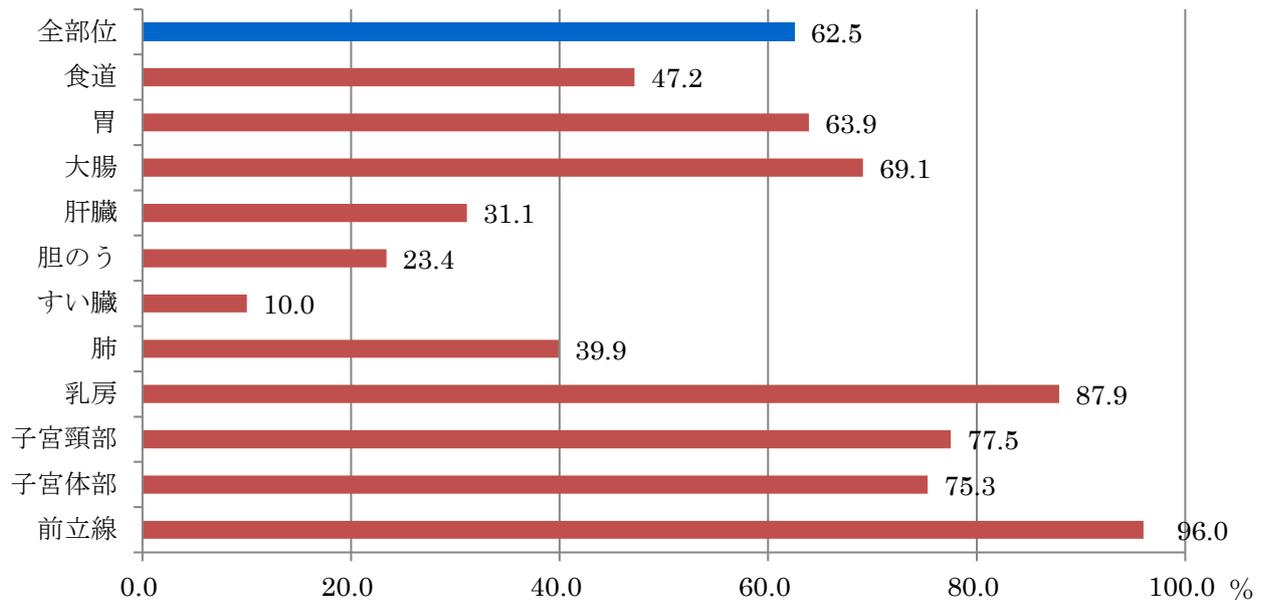
5 5年生存率

本県における5年生存率は、全部位では62.5%となっており、部位別では前立腺が96.0%と最も高く、次いで乳房、子宮（体部、頸部）の順になっており、全国と同様の傾向が見られます。

※5年生存率とは…がんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合。
100%に近いほど治療で生命を救えるがんであることを意味します。

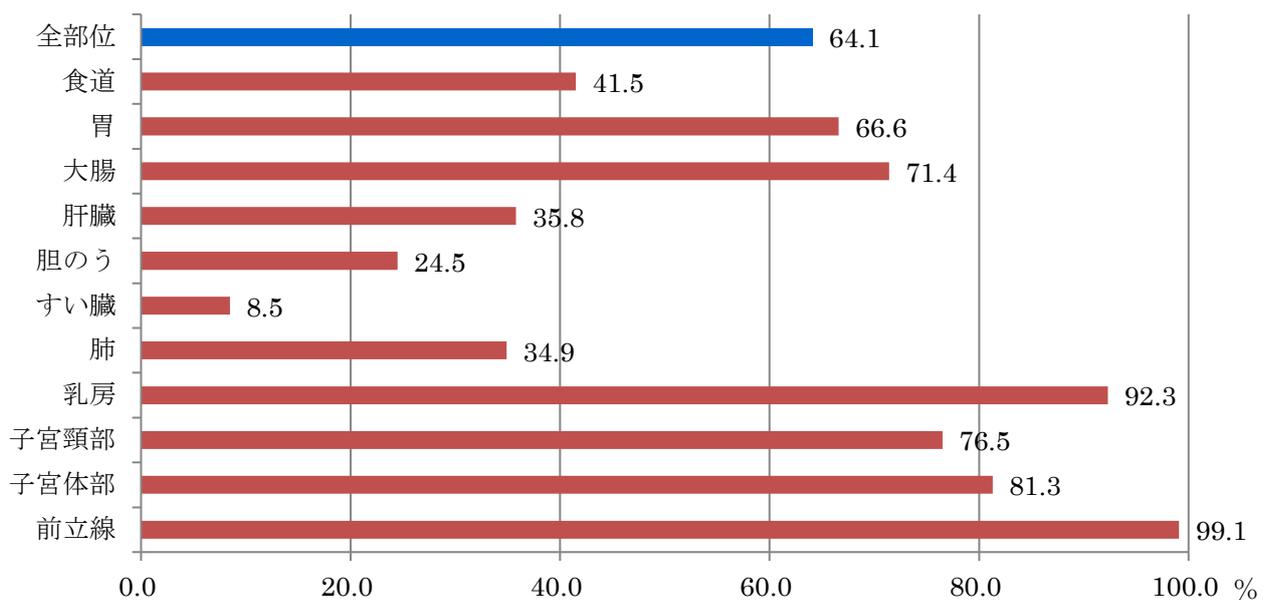
<図-5> 5年生存率

【山口県】（平成27年）



出典：山口県がんサーベイランスセンター「山口県がん登録 令和2年罹患集計」（2015年診断例）

【全国】（平成23年）



出典：国立がん研究センター がん情報サービス

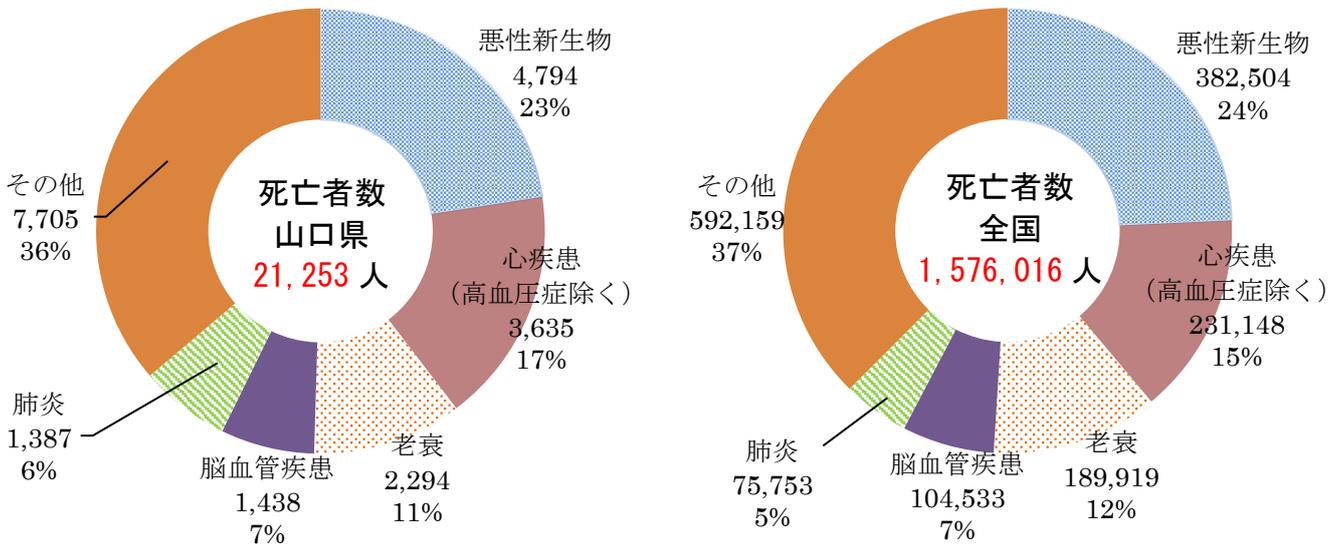
（地域がん登録によるがん生存率データ（2011年診断例））

◇ がんによる死亡の状況

1 主要死因別死亡者数

令和5年における本県のがんによる死亡者数は4,794人（男性：2,710人、女性：2,084人）となっています。がんによる死亡割合は23%を占め、約4人に1人の方ががんで亡くなっています。

<図-6> 主要死因別死亡者数（令和5年）

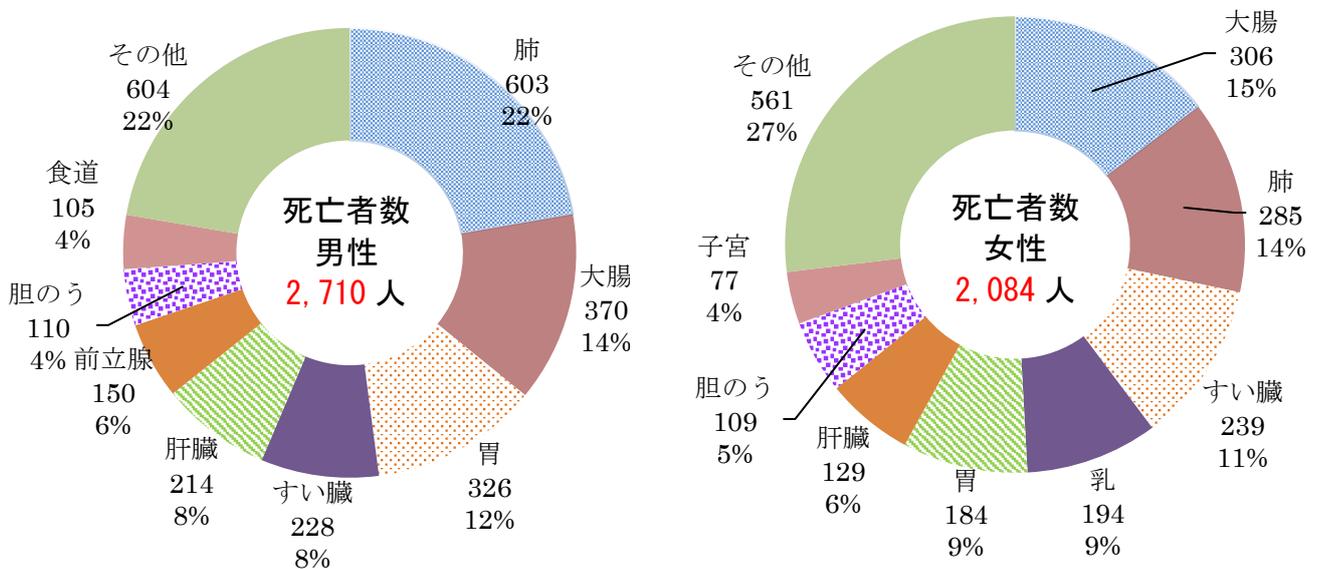


出典：厚生労働省「令和5年人口動態統計」

2 部位別死亡割合

令和5年における本県のがん死亡者における部位別死亡者を男女別にみると、第1位は男性は肺がん（603人）、女性は大腸がん（306人）となっています。

<図-7> 部位別死亡割合（令和5年）



出典：厚生労働省「令和5年人口動態統計」

3 部位別がん粗死亡率の推移

がん死亡者を部位別にみると、男性では肺がん、大腸がん、胃がんの順で多く、女性では大腸がん、肺がん、すい臓がん、乳がんの順で多くなっています。

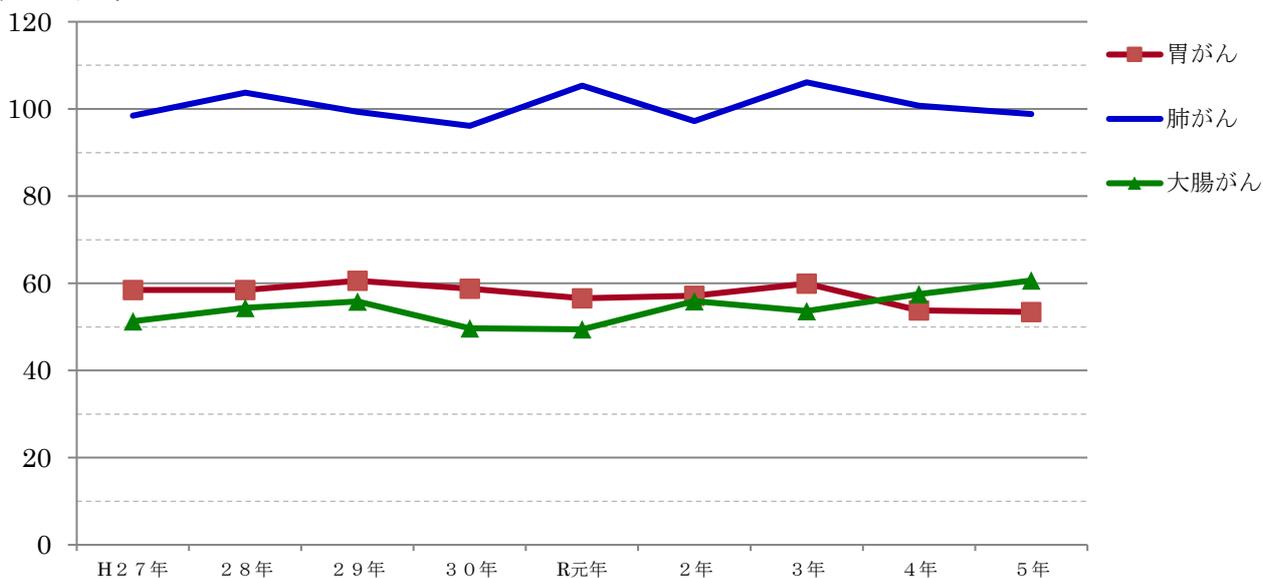
部位別粗死亡率の推移をみると、男性では近年、肺がん、胃がんが減少していますが、大腸がんが増加しています。女性では大腸がんが減少していますが、すい臓がんが増加しています。

※粗死亡率とは…1年間の死亡者を人口で除したもの（年齢調整を行っていないもの）

<図-8> 部位別がん粗死亡率の推移（令和5年）

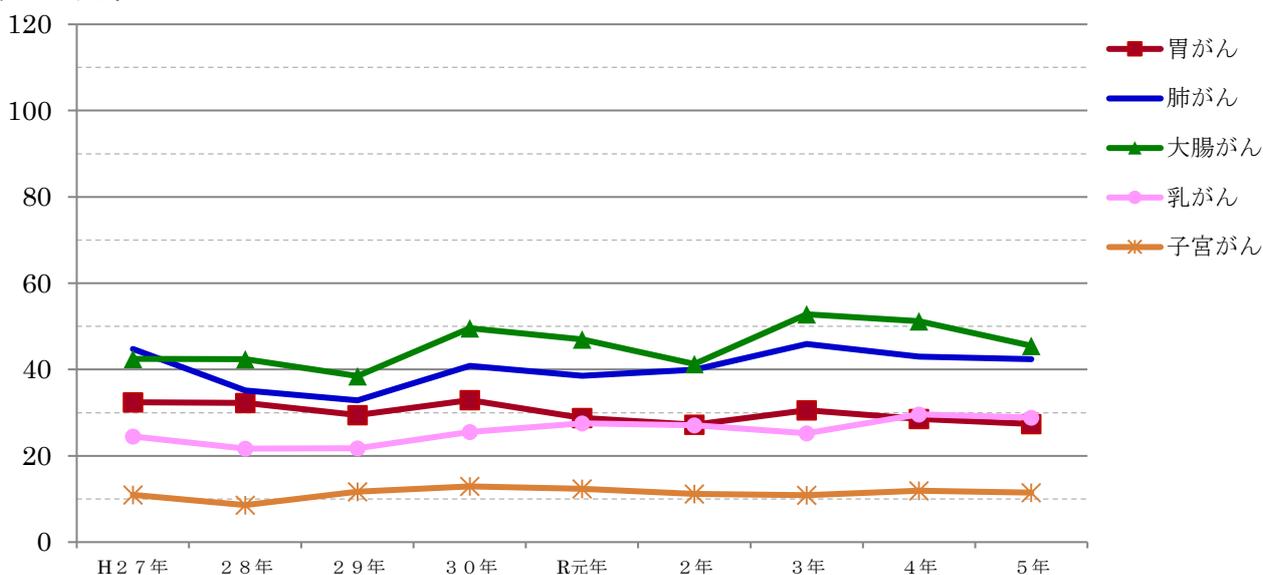
【男性】

人口10万対



【女性】

人口10万対



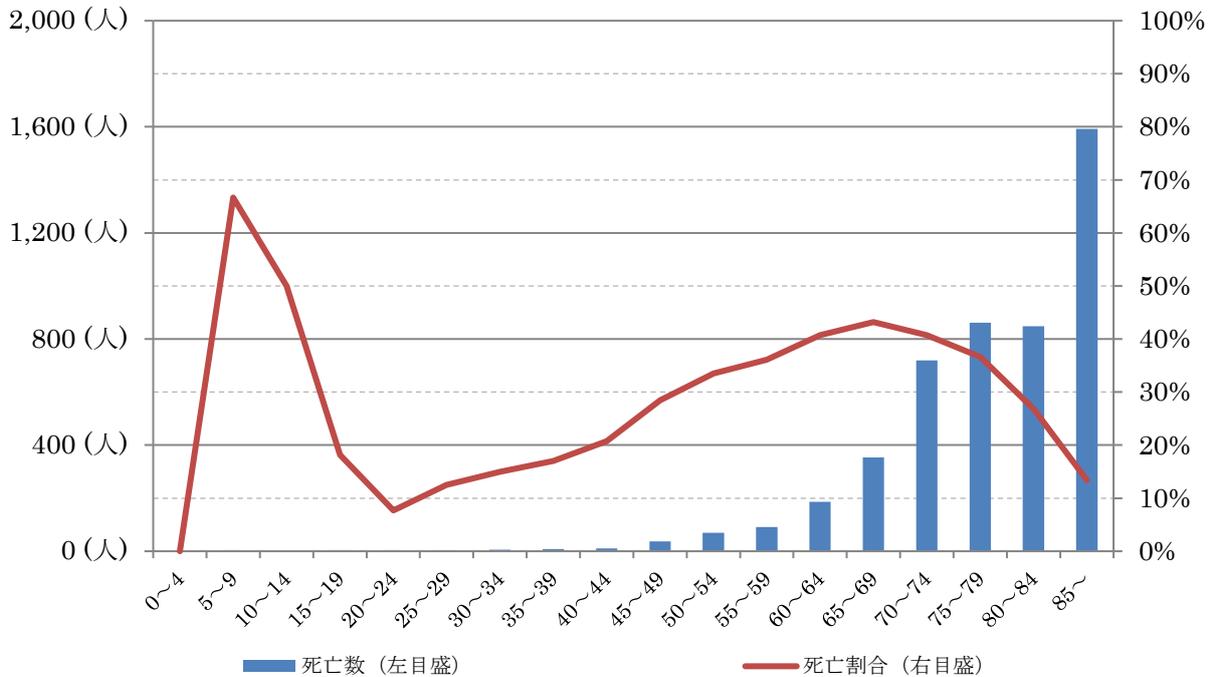
出典：厚生労働省「令和5年人口動態統計」、山口県「山口県統計年鑑」

4 年齢階級別がん死亡者数の状況

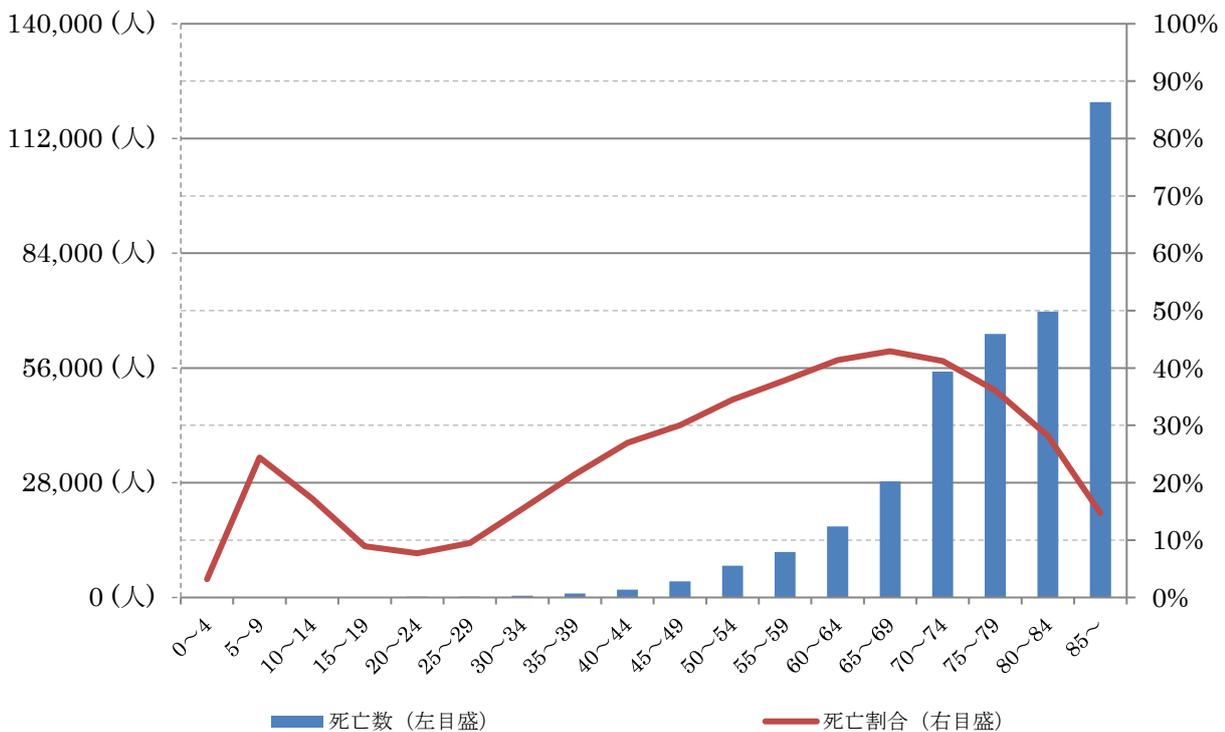
本県のがんによる死亡者は、全国と同様に30代から上昇し、60代後半で全死因に対する死亡割合が最も高くなっています。

<図-9> 年齢階級別がん死亡者数及び全死因に対する死亡割合（令和5年）

【山口県（男女計）】



【全国（男女計）】



出典：厚生労働省「令和5年人口動態統計」

5 年齢調整死亡率（75歳未満）の推移

本県のがん年齢調整死亡率（75歳未満）は、改善（減少）の傾向にあります。

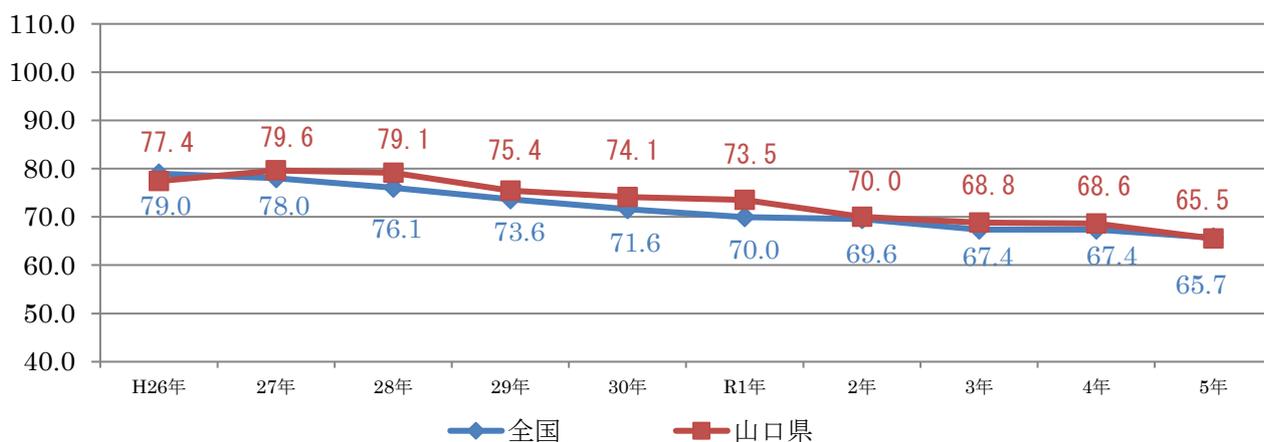
※年齢調整死亡率とは…年齢構成の異なる地域間や年次間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率

〔がんは高齢になるほど罹患や死亡が多くなることから、年齢構成が異なる集団での率を比較するためには、その影響を補正して算出した本指標を用います。〕

<図-10>年齢調整死亡率（75歳未満）の推移（令和5年）

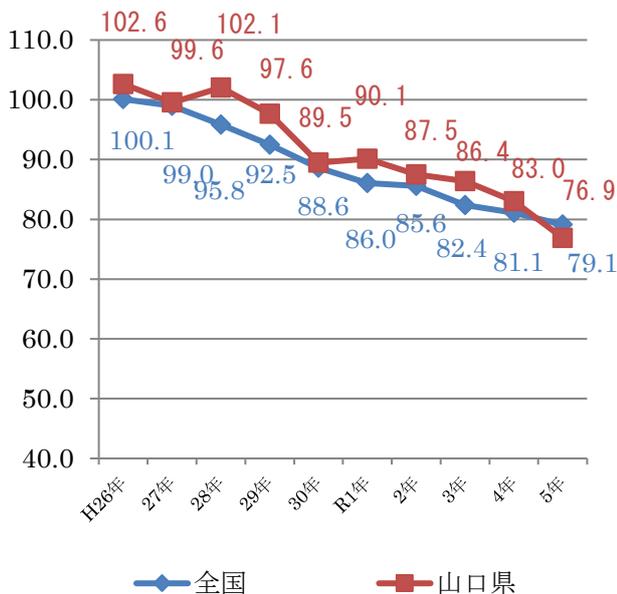
【男女計】

人口10万対



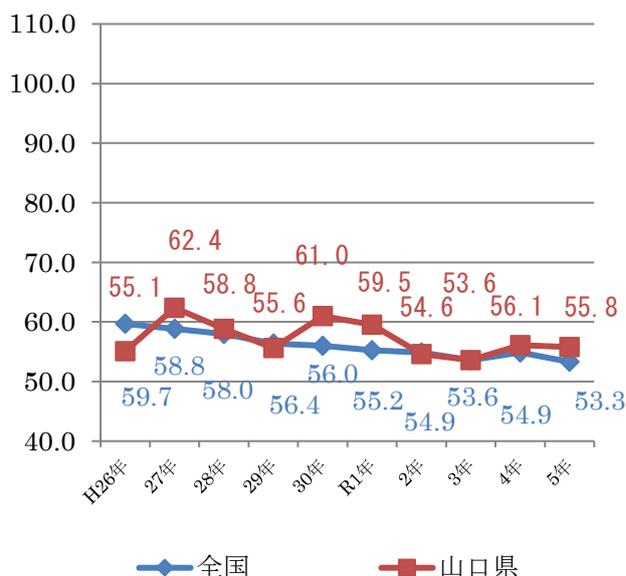
【男性】

人口10万対



【女性】

人口10万対



出典：国立がん研究センター がん情報サービス（都道府県別がん死亡データ 2023年）

◇ がん患者数の状況

患者調査によると、本県でがんにより継続的に医療を受けている患者は、令和2年現在、約4万3千人と推計されています。

また年齢階級別に見ると、そのうち生産年齢人口（15歳から64歳まで）にあたる人は約9千人となっており、がん患者全体に占める割合は約2割となっています。

＜表－1＞患者調査からみたがん患者数（単位：千人）

・ 総数

	山口県	(参考) 全国
(参考) H29	22	1,782
R2	43	3,656

(注) R2 調査で推計方法の変更(前回診療日から調査日までの日数の拡大)があったため、前回(H29)までの値と比較ができない。

・ 年齢階級別数

	計	0～14歳	15～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～歳
男	22	0	0	0	1	3	18
女	21	0	0	1	2	2	16
男女計	43	0	0	1	3	5	34

出典：厚生労働省「患者調査」

◇ がん検診受診率の状況

国民生活基礎調査によると、がん検診受診率は、全国平均を下回っています。

[市町・職域等の実施するがん検診受診率<国民生活基礎調査>]

区分		平成28年		令和元年		令和4年		R4-R1 伸び (ポイント)	R4 全国比較 (ポイント)
		山口県	全国	山口県	全国	山口県	全国		
胃がん	男	43.5%	46.4%	44.7% (50.6%)	48.0% (54.2%)	44.3% (51.5%)	47.5% (53.7%)	▲0.4	▲3.2
	女	29.9%	35.6%	28.8% (35.4%)	37.1% (45.1%)	28.8% (36.2%)	36.5% (43.5%)	±0	▲8.3
肺がん	男	50.0%	51.0%	50.0%	53.4%	51.6%	53.2%	1.6	▲1.6
	女	37.5%	41.7%	38.9%	45.6%	39.0%	46.4%	0.1	▲7.4
大腸がん	男	39.1%	44.5%	41.4%	47.8%	43.5%	49.1%	2.1	▲5.6
	女	29.2%	38.5%	30.2%	40.9%	33.0%	42.8%	2.8	▲9.8
子宮頸がん	女	37.3%	42.3%	35.4%	43.7%	34.9%	43.6%	▲0.5	▲8.7
乳がん	女	36.1%	44.9%	35.4%	47.4%	34.8%	47.4%	▲0.6	▲12.6

出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」

※ 対象年齢：40歳(子宮20歳)～69歳

※ 国民生活基礎調査におけるがん検診受診状況調査は、3年ごとに実施されている。

※ 子宮頸がん及び乳がんは過去2年間の受診率

※ 胃がん(令和元年、令和4年)は、カッコ書きで過去2年間(50歳～69歳)の受診率を記載